

観光政策科学特別コース

観光政策科学特別コース のカリキュラム

観光政策科学特別コースでは、地域社会システム学科のすべての学生と同様に、観光だけではなく、経営学、経済学、政治学・行政学・政策学、法律学、そして数理・統計・計画に関する諸分野を広く学びます。

コース学生は、このうち観光系の科目の一部が必修となっています。また、実習（先進地視察）など、履修をコース学生に限定した科目に参加することができます。



2020年度入学者からコースのカリキュラムが大幅に拡充！

1年	2年	3年	4年
	経営・経済学分野		社会システムに対する広い知識・理解
	政治・行政・政策学分野		
	法律学分野		
数理・統計学分野	地域計画学分野		
	インターンシップ		観光に関する基礎知識・理解
観光分野 [授業科目]	観光政策論 (◎) 観光経営論 I 観光経営論 II (◎) 観光資源保全・活用論 観光政策科学特別講義	観光地経営論及び実習	
観光政策科学入門 (◎) 観光地形成論	観光政策科学実習 I / II / III / IV (○)		
実習 観光政策科学基礎実習 (○)			
	観光分野の教員の実施するプロジェクトへの参加 (※)		
	実践的で柔軟な現場対応能力 観光地域づくりのセンス	研究室 配属 [専門的な分析力・思考力養成] [さまざまな研究プロジェクト]	卒業論文

赤字は 2020 年度入学者からの新設科目

- (◎) 観光政策科学特別コース必修科目
- (○) 観光政策科学特別コース選択必修科目（2科目以上を選択）
- (※) 一部は地域課題解決科目（全学共通科目）として単位認定



実務の現場で活躍する
ゲストスピーカーを招いた授業

▲ 株式会社富士急ハイランドより

コース学生には、授業科目以外にも、視察やプロジェクト参加を通じた実践的な学びの場が多く用意されています（裏面）。



地域社会システム学科ウェブサイトにて、
コースの取り組みや最新情報も随時発信中

<http://www.ss.yamanashi.ac.jp/>



実践を通じて地域と世界をみる

外での学び

これまでの学外研修・活動の例 (2016~2020)

- 富士五湖地域における観光地経営に関する視察
- ツーリズム EXPO (東京) 視察
- 山梨県アンテナショップ (東京) の視察
- 観光地域づくり先進地の視察
(飛騨高山・飛騨古川・白川郷・五箇山、伊勢、瀬戸内、伊豆半島 (熱海ほか)、横須賀、首都圏外郭放水路、白馬 (長野県)、小値賀諸島 (長崎県)、北九州、尾道、奥出雲 (島根県)、越後妻有 (新潟県)、滋賀・京都、徳島 (西阿波)、山形、台湾、シンガポール、タイほか)
- 甲府市文化財保存活用地域計画策定に向けた調査
(甲府市教育委員会との共同研究)
- 勝沼のブドウ畑とワイナリー群の文化的景観調査
(甲州市との共同研究)
- 鳴沢村における地域資源を活かした観光地域形成のための調査研究・プロジェクト
(鳴沢村との共同研究 / 村・大学の包括的連携協定による取り組み)
- アニメ「ゆるキャン△」イベントの企画・運営及び関連調査などの実施
(山梨県、山梨中銀経営コンサルティングとの連携)
- 滞在型の観光地域づくりに向けた各種調査・提案・実践プロジェクト
(富士河口湖町との連携 / 町・大学の包括的連携協定による取り組み)
- クラウドファンディングによる収穫体験イベントの企画
(企業等との連携)
- 日経 BP 社 PBL プログラム
※研究室ごとのプロジェクトや関連授業による取り組みを含む実績 (順不同)

▼観光地を視察することもこのコースでは大切な勉強です。視察を通じて、観光客の立場、観光地計画・運営側の立場という2つの視点から観光地をみられるようになることを目指しています。



- 観光の現場は「地域」です。そこで、観光政策科学特別コースでは、観光地や観光関連の展示会などさまざまな現場に出かけること、そしてフィールドで学ぶことで、五感を通して観光を学ぶことを大切にしています。
- コースの学生には、積極的に学外に出かけ、さまざまな視察のほか、地域や産業界と協働したプロジェクトにも参加することができる多彩なプログラムを用意しています。

教員



◀観光政策科学特別コースは1学年の定員が13名。教員と学生の距離が近いのも特徴です。地域等でのプロジェクトもさまざまな学年が混じって行われるため、先輩から学ぶことも多いです。

学生

▼キャリア形成ワークショップ (1年生対象)。観光に関する仕事の広がりやグループワークを通じて理解し、将来的なキャリアの多様性を考えるきっかけとしていきます。



観光産業や国内外の地域などが出展する日本最大の観光見本市「ツーリズム EXPO」の視察。観光を取り巻く社会の潮流を肌で感じ、俯瞰的な視点をもって地域で活躍できる人材となることを目指します。



▲観光資源の掘り起こしは、例えば、地域の歴史や文化、景観を調べるなどから始まります。そして、そこでの発見を独自の視点でアレンジし、観光地づくり、地域づくりへとつなげていきます。教員のプロジェクトや市町村と連携した取り組みへの継続的な参加を通じて、実践的な学びを深めていきます。